

久かたの雲の上にてみる菊はあまつほしとぞあやまたれける
〔伊勢物語上〕むかしなま心ある女有けり、男ちかう有けり、女歌よむ人なりければ心みんとて菊の花のうつろへるを折て、をとこのもとへやる、

くれなるに匂ふはいづら白菊の枝もとををにふるかとも見ゆ、おとこえらすよみによみける、

紅に匂ふがうへのえら菊はをりける人のそでかとも見ゆ

〔大和物語上〕おなじみかど、多字齋院のみこの御もとに、菊につけて、

行てみぬ人の爲にと思はずば誰かおらまし我宿の菊、さい院御かへし、

我宿に色折とむる君なくばよそにも菊のはなをみましや

〔真信公記〕延喜九年十月四日、内裏有菊花宴、八日庚午、參宇治並極樂寺、有供菊事、

〔菅家文章四〕寄白菊四十韻

遠隔蒼波路、遙思白菊園、東京蝸舍宅、西向雀羅門、小墻斜當戶、疎欄正逼軒、無池蓮本欠、有畝竹逾繁、擬擅孤藜美、先芸蔗草蕃、苗從台嶺得、種在侍郎存、予爲吏部侍郎之日、天台明公寄此花種、下手分移遍、中心愛護敦、早春新膩葉、初夏細牙根、待灌占依井、承湯免戴盆、藥期揚酷烈、莖約引嬋媛、爽籟吹灰到、流年轉轂奔、乍看珠顆坼、爭賞素窠翻、蟬翅迷施粉、蜂鑽鬧著痕、地疑星強宋、庭似雪封袁、紫襲衣藏篋、香浮酒滿罇、仙家嫌葱圃、隱士厭桃源、笑殺陶元亮、漁資楚屈原、和光宜月露、同類是蘭蓀、色惜衰虛室、名後要盛昆、慚芋曾獻主、悔劔只貽孫、住老休炊桂、忘憂倍帶萱、芬芳應佩服、貞潔欲攀援、四序環無賜、千秋矢不諼、生涯雖量測、祿命未平反、面目歡娛少、風塵悶亂煩、業拋羊柱筆、官建隼旗幡、失道人皆議、安身我獨論、雙龜收北闕、五馬屬南轅、文選云、別子雙龜、李氏謂罷二官也、余鬱鬱江雲、鼻濛濛澗雨、温行程過、綠浦逆旅、臥青蘋、水國親賓絕、漁津商賈喧、一來疲涕泗、三度變寒暄、想像霜華發、悲傷晚節昏、含情排客館、抱影